

2022 年度 事業報告書

〔 自 2022 年 4 月 1 日 〕
〔 至 2023 年 3 月 31 日 〕

当財団は、「産業、経済、文化の発展に貢献する科学技術、芸術等を中心とする分野で著しい貢献をした者の顕彰、研究または普及啓発に対する助成等を通じてその促進を図ると共に国際相互理解の増進に努め、もって社会の啓発に貢献し、人類の平和と繁栄に寄与する。」ことを目的として 1984 年 4 月 12 日に設立され、1985 年に第 1 回京都賞授賞式及び第 1 回研究助成金贈呈式を開催し、事業を開始した。また、2011 年 4 月 1 日に公益財団法人の認定を受け、新公益法人制度に基づいた運営を開始した。

2022 年度は、引き続きの新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じながら、事業を実施した。2022 年度の主要事業の活動概要を、次のとおり報告する。

I. 顕彰事業

1. 第 36 回(2021)京都賞に関する事項

(1) 英国オックスフォード大学における「Kyoto Prize at Oxford」の開催支援

2022 年 5 月 10 日～11 日（現地時間）、第 36 回(2021)京都賞受賞者を迎えてハイブリッド形式にて開催された英国オックスフォード大学主催の「第 5 回 Kyoto Prize at Oxford」を支援した。

2. 第 37 回(2022)京都賞に関する事項

(1) 受賞者の決定と発表

2022 年 6 月 17 日、定時理事会において第 37 回(2022)京都賞受賞者を次のとおり決定し、同日の記者会見において発表した。

① 先端技術部門受賞者

カーヴァー・ミード（Carver Mead）

職 業：電子工学者・応用物理学者

カリフォルニア工科大学

ゴードン・アンド・ベティ・ムーア工学・応用科学名誉教授

業 績：

「大規模集積回路（VLSI）システム設計の指導原理の構築と確立への先導的貢献」
大規模集積回路（VLSI）の進歩に伴って複雑化する設計過程を、論理設計・回路設計・レイアウト設計に階層化し、製造工程から切り離す新たな方法論を提案・推

進した。また各設計過程を自動化する CAD 技術の確立にも多大な寄与をなし、VLSI を基盤とするエレクトロニクス技術と産業の発展に大いに貢献した。

② 基礎科学部門受賞者

ブライアン・T・グレンフェル (Bryan T. Grenfell)

職 業：集団生物学者

プリンストン大学

キャスリン・ブリガー・アンド・サラ・フェントン生態・進化生物学

および公共政策教授

業 績：

「病原体の進化と感染拡大を統一的に分析する革新的方法論の開拓」

進化を考慮して RNA ウイルス感染症の消長を予測する方法論「ファイロダイナミクス」を提案し、免疫動態・疫学・進化学を統合した研究分野の開拓・発展に貢献した。これらの成果に基づき、さまざまな感染症の感染メカニズムの理解や効果的な感染予防方針の提案に大きな役割を果たした。

③ 思想・芸術部門受賞者

ザーキル・フセイン (Zakir Hussain)

職 業：タブラー奏者

業 績：

「インドの伝統打楽器タブラーの新たな音楽的可能性を切り開いた革新的創造力に富む芸術家」

ヒンドウスターニー音楽を代表するタブラー奏者であり、インド伝統音楽の枠組みを超えて世界中のさまざまなジャンルの音楽家と共演して新しい音楽世界を切り開いた。超絶技巧、魅力的なパフォーマンス、そして豊かな創造性により、世界の音楽家たちに絶大なインパクトを与えている。

(2) 京都賞審査機関委員の公表

受賞者の発表に併せて、第 37 回(2022)京都賞審査機関委員を次のとおり公表した。

[京都賞委員会]

榊 裕之(委員長) 奈良国立大学機構 理事長

巖佐 庸 九州大学 名誉教授

北山 研一 大阪大学 名誉教授

長木 誠司 東京大学 大学院総合文化研究科 教授

村上 正紀 立命館大学 特別研究フェロー

森 重文 京都大学 高等研究院 院長・特別教授

鷲田 清一 大阪大学 名誉教授

[審査委員会]

① 先端技術部門

北山 研一（委員長）	大阪大学 名誉教授
天野 英晴	慶應義塾大学 理工学部 教授
荒川 泰彦	東京大学 ナノ量子情報エレクトロニクス研究機構 特任教授
尾崎 雅則	大阪大学 大学院工学研究科 教授
谷口 研二	大阪大学 名誉教授
中村 泰信	理化学研究所 量子コンピュータ研究センター センター長
野田 進	京都大学 大学院工学研究科 教授
横山 直樹	富士通(株) 名誉フェロー

② 基礎科学部門

巖佐 庸（委員長）	九州大学 名誉教授
熊谷 朝臣	東京大学 大学院農学生命科学研究科 教授
颯田 葉子	総合研究大学院大学 先端科学研究科 生命共生体進化学専攻 副専攻長
辻 和希	琉球大学 農学部 教授
東樹 宏和	京都大学 生態学研究センター 准教授
長谷川 眞理子	総合研究大学院大学 学長
松田 裕之	横浜国立大学 大学院環境情報研究院 教授
矢原 徹一	福岡市科学館 館長

③ 思想・芸術部門

長木 誠司（委員長）	東京大学 大学院総合文化研究科 教授
伊東 信宏	大阪大学 大学院人文学研究科 教授
岡田 暁生	京都大学 人文科学研究所 教授
柿沼 敏江	京都市立芸術大学 名誉教授
小沼 純一	早稲田大学 文学学術院 教授
寺田 吉孝	人間文化研究機構 国立民族学博物館 名誉教授
ピーター・バラカン	ブロードキャスター
細川 周平	京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター 所長

[専門委員会]

① 先端技術部門

野田 進（委員長）	京都大学 大学院工学研究科 教授
寒川 哲臣	日本電信電話(株) 先端技術総合研究所 所長
田中 雅明	東京大学 大学院工学系研究科 スピントロニクス学術連携研究教育センター センター長・教授
中村 健太郎	東京工業大学 科学技術創成研究院 教授
平本 俊郎	東京大学 生産技術研究所 教授

平山 祥郎	東北大学 先端スピントロニクス研究開発センター 総長特命教授・センター長
安浦 寛人	国立情報学研究所 副所長・学術基盤チーフディレクター
吉本 昌広	京都工芸繊維大学 理事・副学長

② 基礎科学部門

矢原 徹一（委員長）	福岡市科学館 館長
北島 薫	京都大学 大学院農学研究科 教授
佐竹 暁子	九州大学 大学院理学研究院 教授
柴田 英昭	北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 教授
高村 典子	国立環境研究所 客員研究員
仲岡 雅裕	北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 教授
西田 治文	中央大学 理工学部 教授
長谷部 光泰	自然科学研究機構 基礎生物學研究所 副所長

③ 思想・芸術部門

伊東 信宏（委員長）	大阪大学 大学院人文学研究科 教授
井上 貴子	大東文化大学 国際関係学部 教授
鈴木 茂	(株)アルテスパブリッシング 代表取締役
野川 美穂子	東京藝術大学 音楽学部 非常勤講師
畠中 実	NTT インターコミュニケーション・センター [ICC] 主任学芸員
福中 冬子	東京藝術大学 音楽学部 教授
毛利 嘉孝	東京藝術大学 大学院国際芸術創造研究科 教授
森岡 実穂	中央大学 経済学部 教授

（肩書は2022年6月1日現在）

3. 第37回(2022)京都賞授賞式及び関連行事の開催

（1）京都賞授賞式及び関連行事の開催中止、特設ウェブサイトの開設

2022年11月に開催予定であった第37回(2022)京都賞授賞式及び関連行事は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し中止とした。授賞式等開催中止に伴い、受賞者及びその業績等の新たな公表の場として、第37回(2022)京都賞特設ウェブサイトを開設し、名誉総裁 高円宮妃久子殿下のお言葉並びに会長及び理事長の挨拶を掲載、受賞者それぞれの特別制作映像として「受賞者紹介映像」及び「記念講演映像」を、同ウェブサイト上でのオンライン配信等により公表した。

（2）新聞・ウェブニュース等による報道

第37回(2022)京都賞の映像配信に関する情報が広汎に報道された。また、国内、国外

の新聞社や通信社、その他ニュース配信サービス等により京都賞映像配信に関する記事が掲載された。国内では、京都新聞、産経新聞、読売新聞、日経新聞、朝日新聞、毎日新聞、また共同通信や各都道府県の地方紙、ウェブニュース等において多数記事が掲載され、国外では、USA TODAY、The New York Times、L.A. Times、Bloomberg Businessweek、AP News、Bioengineering.orgなどで広く紹介された。

(3) 広告等の展開

第37回(2022)京都賞「受賞者紹介映像」及び「記念講演映像」へのアクセスや認知を目的とし、次のとおり印刷物の制作及び配布、SNS、ウェブ広告等を展開した。

① 印刷物の制作及び配布

- ・第37回(2022)京都賞特設ウェブサイトに関するチラシの制作及び配布

② SNS、ウェブ広告等の展開

- ・稲盛財団公式 SNS (Facebook / Twitter / YouTube) やメールマガジンによる情報発信
- ・Facebook / Twitter での広告出稿
- ・Science 誌による 3rd Party Email サービスの活用

(4) 米国サンディエゴにおける「京都賞シンポジウム」の開催支援及び寄附

2023年3月14日～18日(現地時間)、第37回(2022)京都賞受賞者を迎えて、米国サンディエゴにて開催された「第21回(2023)京都賞シンポジウム」及び関連事業を支援した。また、2019年に再調印した「京都賞シンポジウム覚書」に基づき、同シンポジウム主催の京都賞シンポジウム組織及び共催大学(カリフォルニア大学サンディエゴ校、ポイント・ロマ・ナザレン大学)に対して、4回目35万ドルの寄附を実施した。(2019年度から2022年度までの4年間で総額140万ドルを寄附)

4. 第38回(2023)京都賞に関する事項

(1) 京都賞審査機関委員の委嘱

2021年10月15日の決議の省略の方法による臨時理事会において選任された第38回(2023)京都賞審査機関委員に対し、2022年8月27日と9月3日に開催した第38回(2023)京都賞審査機関合同会議において正式に委嘱を行った。

(2) 推薦依頼書の発送

2022年5月、推薦依頼方針に基づいて選ばれた国内、海外の有識者に対して、郵送もしくはメールにて受賞候補者推薦の依頼を行った。

(3) 推薦の受付

2022 年 7 月 13 日をもって推薦書の受付を締め切った。

(4) 京都賞審査機関による審査

授賞対象分野毎に専門委員会を各 4 回計 12 回、審査委員会を各 2 回計 6 回開催した。

5. 第 39 回(2024)京都賞に関する事項

(1) 授賞対象分野の決定

2022 年 10 月 7 日、決議の省略の方法による臨時理事会において第 39 回(2024)京都賞授賞対象分野を次のとおり決定した。

先端技術部門 : 材料科学

Materials Science and Engineering

基礎科学部門 : 地球科学・宇宙科学

Earth and Planetary Sciences, Astronomy and Astrophysics

思想・芸術部門 : 映画・演劇

Theater, Cinema

(2) 京都賞審査機関委員の決定

2022 年 10 月 7 日、決議の省略の方法による臨時理事会において第 39 回(2024)京都賞審査機関委員を選任した。

II. 研究助成事業

1. 稲盛研究助成

(1) 2022 年度稲盛研究助成に関する事項

① 2022 年度稲盛研究助成金の贈呈

2022 年 3 月 11 日の定時理事会において承認された 50 件より 1 件の辞退を受け、計 49 件総額 4,900 万円の贈呈を行った。尚、2022 年 4 月に開催予定であった 2022 年度稲盛研究助成金贈呈式及び盛和スカラーズソサエティ交流会は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し中止とした。

※ 附属明細 1「2022 年度研究助成事業 稲盛研究助成対象者並びに研究題目」を参照

(2) 2023 年度稲盛研究助成に関する事項

① 応募受付の開始

2022 年 7 月 1 日、2023 年度稲盛研究助成の申請書の受付を開始した。

② 応募の締切

2022 年 8 月 31 日をもって申請書の受付を締め切り、93 の大学及び研究機関より 394 件の応募を得た。この応募分について、各委員による予備選考を行った。

③ 稲盛研究助成選考委員会による選考

2022 年 12 月 2 日と 12 月 3 日に稲盛研究助成選考委員会を開催し、50 件 5,000 万円の助成対象者の選考を行った。

④ 稲盛研究助成対象者の決定と発表

2023 年 3 月 10 日、定時理事会において、2023 年度稲盛研究助成対象者及び助成金額を決定し、プレス発表を行った。

※ 附属明細 2「2023 年度研究助成事業 稲盛研究助成対象者並びに研究題目」を参照

⑤ 稲盛研究助成選考委員の公表

助成対象者の発表に併せて、2023 年度稲盛研究助成選考委員を次のとおり公表した。

[2023 年度稲盛研究助成選考委員]

村上 正紀（委員長） 立命館大学 特別研究フェロー

[自然科学系]

審良 静男	大阪大学 ワクチン開発拠点 先端モダリティ・DDS研究センター 拠点長
巖佐 庸	九州大学 名誉教授
上田 正仁	東京大学 大学院理学系研究科 教授
岡田 清孝	京都大学 名誉教授
影山 龍一郎	理化学研究所 脳神経科学研究センター センター長
片岡 一則	(公財)川崎市産業振興財団 副理事長 東京大学 名誉教授
君塚 信夫	九州大学 大学院工学研究院 主幹教授
佐々木 節	東京大学 国際高等研究所 カブリ数物連携宇宙研究機構 副機構長
坪井 俊	武蔵野大学 工学部 特任教授
西田 栄介	理化学研究所 生命機能科学研究センター センター長
野田 進	京都大学 大学院工学研究科 教授
安浦 寛人	国立情報学研究所 副所長・学術基盤チーフディレクター
柳田 素子	京都大学 大学院医学研究科 教授

山田 容子 奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 教授

[人文・社会科学系]

井野瀬 久美恵 甲南大学 文学部 教授
玄田 有史 東京大学 社会科学研究所 教授
河野 哲也 立教大学 文学部 教授
山室 信一 京都大学 名誉教授
渡辺 千原 立命館大学 法学部 教授

(肩書は2022年12月1日現在)

(3) 2024年度稲盛研究助成に関する事項

① 稲盛研究助成選考委員の決定

2023年3月10日、定時理事会において2024年度稲盛研究助成選考委員を選任した。

2. 稲盛科学研究機構(InaRIS)フェローシップ

(1) 2022年度 稲盛科学研究機構(InaRIS)フェローシップに関する事項

① 2022年度 InaRIS フェロー授与式の開催

2022年4月23日、ホテルオークラ京都において2022年度 InaRIS フェロー授与式を開催し、2022年3月11日の定時理事会において承認された2名に対して、認定書を贈呈するとともに、InaRIS フェローの称号を授与した。

② InaRIS フェローに対する助成金の贈呈

2022年度に活動する6名の InaRIS フェローに対し、各1,000万円、総額6,000万円の助成金贈呈を行った。(各 InaRIS フェローに対する助成金は、1年あたり1,000万円、10年間合計1億円とする。)

③ InaRIS 運営委員会の開催

2022年3月11日の定時理事会において承認された2022年度 InaRIS 運営委員により、2022年10月4日と2023年1月23日に、InaRIS 運営委員会を開催した。

[2022年度 InaRIS 運営委員]

中西 重忠 (機構長) 京都大学 名誉教授
岡田 清孝 京都大学 名誉教授
小林 誠 高エネルギー加速器研究機構 特別名誉教授
榊 裕之 奈良国立大学機構 理事長

西尾 章治郎 大阪大学 総長
森 重文 京都大学 高等研究院 院長・特別教授
山中 伸弥 京都大学 iPS 細胞研究所 名誉所長・教授

(肩書は 2023 年 3 月 1 日現在)

④ アドバイザリー・ボード・ミーティングの開催

2022 年 10 月 4 日、2022 年度アドバイザリー・ボード・ミーティングを開催し、在籍する InaRIS フェローより、1 年間の研究成果と今後 1 年間の研究計画の報告を受けた。

⑤ 2022 年度中間審査会の開催

2022 年 10 月 4 日、2022 年度中間審査会を開催し、助成開始から 3 年目の InaRIS フェローより、3 年間の研究成果と今後 3 年間の研究計画の報告を受けた。

(2) 2023 年度 稲盛科学研究機構(InaRIS)フェローシップに関する事項

① 応募受付の開始

2022 年 5 月 23 日、対象領域を「水平線の彼方の情報学」とする 2023 年度 InaRIS フェローシップの申請書の受付を開始した。

② 応募の締切

2022 年 7 月 28 日をもって申請書の受付を締め切り、21 の大学及び研究機関より 36 件の応募を得た。

③ InaRIS フェロー選考委員会による選考

2022 年 11 月 23 日と 12 月 24 日に InaRIS 選考委員会を開催し、InaRIS フェロー候補者の選考を行った。

④ InaRIS フェローの決定

2023 年 3 月 10 日、定時理事会において 2023 年度 InaRIS フェローを決定し、3 月 17 日にプレス発表を行った。

※ 附属明細 3「2023 年度研究助成事業 稲盛科学研究機構(InaRIS)フェロー」を参照

⑤ InaRIS フェロー選考委員の公表

InaRIS フェローの発表に併せて、2023 年度 InaRIS フェロー選考委員を次のとおり公表した。

[2023 年度 InaRIS フェロー選考委員]

安浦 寛人(委員長) 国立情報学研究所 副所長・学術基盤チーフディレクター
井上 美智子 奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 教授

今井 浩	東京大学 大学院情報理工学系研究科 教授
黒橋 禎夫	京都大学 大学院情報学研究科 教授
東野 輝夫	京都橘大学 副学長
間瀬 健二	名古屋大学 数理・データ科学教育研究センター 特任教授
盛合 志帆	情報通信研究機構 サイバーセキュリティ研究所 所長

(肩書は2022年12月1日現在)

⑥ 運営委員の決定

2023年3月10日、定時理事会において、2023年度 InaRIS 運営委員を選任した。

(3) 2024年度 稲盛科学研究機構(InaRIS)フェローシップに関する事項

① 対象領域の決定

2023年1月23日、運営委員会において、2024年度 InaRIS 対象領域を「異分野コンバージェンスによる革新的医療の創出」と決定した。

② InaRIS フェロー選考委員の決定

2023年3月10日、定時理事会において、2024年度 InaRIS フェロー選考委員を選任した。

Ⅲ. 社会啓発事業

1. こどものキヅキ応援プロジェクトの推進

「こどもたちが不思議を見つけて、自ら深め、連鎖的に増やすことを応援する」をコンセプトに掲げ、こどもたちのキヅキを促し、受け止め、自分で調べてみようと思うきっかけとなる場を提供する「こどものキヅキ応援プロジェクト」を推進した。

(1) 不思議をみつけるウェブサイト「キヅキランド」

2022年4月20日、ウェブサイト「キヅキランド」を公開し、運用を開始した。また、次の日程にて、各回ゲストを迎えてのオンラインワークショップを開催するとともに、利便性を向上させるための開発やコンテンツ制作等を行った。

- ① 2022年5月21日、ゲスト：本田 隆行／科学コミュニケーター
- ② 2022年8月7日、ゲスト：石川 将也／映像作家、グラフィックデザイナー、視覚表現研究者
- ③ 2022年9月19日、ゲスト：小島 よしお／お笑い芸人
- ④ 2022年11月19日、ゲスト：塩瀬 隆之／京都大学総合博物館 准教授
- ⑤ 2023年1月14日、ゲスト：末永 幸歩／美術教育者
- ⑥ 2023年3月30日、ゲスト：檜垣 万里子／プロダクトデザイナー

(2) 少人数での体験ワークショップ「キヅキひろば」

コンセプトに共感するパートナーと協働し、次のワークショップを実施した。

- ① 2022 年 10 月 22 日、落ち葉探偵と協働し、上賀茂神社において「落ち葉たんていになってツチモンを探そう！」を開催した。
- ② 2023 年 2 月 11 日、つくるまなぶ京都町家科学館と協働し、KTC ものづくり技術館において「【オンライン工場見学】工具が生まれる工場たんけん！」を開催した。

(3) 夏休みの科学の祭典「こども科学博」

「こども科学博 2023」の企画及び準備を実施した。

2. 「INAMORI ミュージック・デイ」の立ち上げ及び推進

(1) 「INAMORI ミュージック・デイ」の立ち上げ

文化芸術振興プログラム（音楽）として、音楽を通して、市民や学生など開催地域における参加者が文化芸術のすばらしさを再発見し、人生をより豊かにするためのプログラム「INAMORI ミュージック・デイ」を立ち上げた。

(2) 「INAMORI ミュージック・デイ 2022」の開催

2022 年 11 月 3 日「文化の日」に、京都市交響楽団と招聘アーティストによるコンサートを開催するとともに、スクールコンサートやミニコンサート等の音楽イベントを同時期に企画し、より多く方々が音楽と出会う機会を創出した。

① メインコンサート

2022 年 11 月 3 日、世界で活躍する若手音楽家の杉本 優（指揮）、周防 亮介（ヴァイオリン）を招聘し、ロームシアター京都メインホールにおいて、京都市交響楽団との共演コンサートを開催した。なお、中高生を対象に約 150 名を本コンサートに無料招待した。

② スクールコンサート&レッスン

2022 年 11 月 4 日、杉本 優（指揮・ピアノ）、周防 亮介（ヴァイオリン）を招聘し、京都府立亀岡高等学校において、全校生徒及びその保護者を対象にスクールコンサートを開催するとともに、吹奏楽部及び合唱部に対しレッスンを実施した。

③ ミニコンサート

2022 年 10 月 15 日、26 日、28 日の 3 日間にわたり、京都市京セラ美術館において、京都市交響楽団によるミニコンサートを開催した。

3. 「京都大学－稲盛財団合同京都賞シンポジウム」の支援及び寄附

京都賞に対する社会の期待と関心を高めるとともに、学術・芸術の振興に寄与し、併せて京都大学と当財団の協力関係を強化することを目的として、2023年2月12日、京都大学との共催による「第9回 京都大学－稲盛財団合同京都賞シンポジウム」を開催した。また、2022年3月に再調印した寄附覚書に基づき、第1回2,000万円の寄附を実施した。（2022年度から2025年度までの4年間で総額8,000万円を寄附予定）

4. ウクライナ避難民に対する継続支援

昨年度に引き続き、ウクライナからポーランドなど各国に逃れた避難民に対する継続支援として、次代を担うこどもたちや若者の教育や研究等の機会の保護並びに救援活動に貢献することを目的に、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の日本公式支援窓口である特定非営利活動法人国連UNHCR協会に対し2億円、国際連合児童基金（UNICEF）の日本国内委員会である公益財団法人日本ユニセフ協会に対し2億円、計4億円の寄附を実施した。

5. 米国「倫理と叡智のための稲盛国際センター」の活動支援

当財団の寄附（総額1,100万ドル）により設立された米国オハイオ州のケースウェスタンリザーブ大学「倫理と叡智のための稲盛国際センター」の活動を支援した。

IV. その他の活動

1. 会議の開催状況

理事会、評議員会を次のとおり開催し、全ての議案が原案のとおり可決承認された。

（1）理事会

臨時理事会（決議の省略の方法による）

日 時 2022年5月27日

議 案 ・2021年度事業報告及び決算報告の件
・定時評議員会開催の件

定時理事会

日 時 2022年6月17日

議 案 ・第37回(2022)京都賞受賞者承認の件
・京セラ株式会社第68期定時株主総会議決権行使の件
報告事項 ・第37回(2022)京都賞行事の件
・2021年度事業報告及び決算報告の件
・代表理事・業務執行理事の職務執行状況報告

- ・米国サンディエゴでの第 20 回(2022)京都賞シンポジウム開催の件
- ・英国オックスフォード大学での第 5 回 **Kyoto Prize at Oxford** 開催の件
- ・文化芸術振興プログラム(音楽)「INAMORI ミュージック・デイ」開催の件
- ・主要日程の件

臨時理事会（決議の省略の方法による）

- 日 時 2022 年 10 月 7 日
- 議 案 ・ 第 39 回(2024)京都賞授賞対象分野の件
 ・ 第 39 回(2024)京都賞審査に係る委員選任の件
- 報告事項 ・ 主要日程の件

定時理事会

- 日 時 2023 年 3 月 10 日
- 議 案 ・ 2023 年度 InaRIS フェロー並びに助成金額承認の件
 ・ 2023 年度 InaRIS 運営に係る委員選任の件
 ・ 2024 年度 InaRIS フェロー選考に係る委員選任の件
 ・ 2023 年度稲盛研究助成対象者並びに助成金額承認の件
 ・ 2024 年度稲盛研究助成選考に係る委員選任の件
 ・ 難民支援に係る寄附継続の件
 ・ 2023 年度事業計画及び収支予算の件
 ・ 学術諮問委員創設の件
 ・ 臨時評議員会開催の件
- 報告事項 ・ 代表理事・業務執行理事の職務執行状況報告
 ・ 第 37 回(2022)京都賞受賞者面談の件
 ・ 第 38 回(2023)京都賞推薦状況報告の件
 ・ 主要日程の件

（２）評議員会

定時評議員会

- 日 時 2022 年 6 月 17 日
- 議 案 ・ 2021 年度事業報告及び決算報告の件
- 報告事項 ・ 代表理事・業務執行理事の職務執行状況報告
 ・ 第 37 回(2022)京都賞受賞内定者の件
 ・ 第 37 回(2022)京都賞行事の件
 ・ 米国サンディエゴでの第 20 回(2022)京都賞シンポジウム開催の件
 ・ 英国オックスフォード大学での第 5 回 **Kyoto Prize at Oxford** 開催の件
 ・ 文化芸術振興プログラム(音楽)「INAMORI ミュージック・デイ」開催の件
 ・ 主要日程の件

2. 委員会等の開催状況

(1) 京都賞顕彰事業の各委員会

開催日	名称	議題
2022. 8. 27	京都賞審査機関合同会議 ※基礎科学部門単独開催	審査基本方針決定
2022. 9. 3	京都賞審査機関合同会議	審査基本方針決定
2022. 11. 19	京都賞先端技術部門 第1回専門委員会	候補者審査
2022. 11. 20	京都賞基礎科学部門 第1回専門委員会	候補者審査
2022. 11. 26	京都賞思想・芸術部門 第1回専門委員会	候補者審査
2022. 12. 10	京都賞先端技術部門 第2回専門委員会	候補者審査
2022. 12. 11	京都賞基礎科学部門 第2回専門委員会	候補者審査
2022. 12. 17	京都賞思想・芸術部門 第2回専門委員会	候補者審査
2023. 1. 7	京都賞先端技術部門 第3回専門委員会	候補者審査
2023. 1. 8	京都賞基礎科学部門 第3回専門委員会	候補者審査
2023. 1. 9	京都賞思想・芸術部門 第3回専門委員会	候補者審査
2023. 1. 28	京都賞先端技術部門 第4回専門委員会	候補者審査
2023. 1. 29	京都賞基礎科学部門 第4回専門委員会	候補者審査
2023. 2. 4	京都賞思想・芸術部門 第4回専門委員会	候補者審査
2023. 2. 18	京都賞先端技術部門 第1回審査委員会	候補者審査
2023. 2. 19	京都賞基礎科学部門 第1回審査委員会	候補者審査
2023. 2. 23	京都賞思想・芸術部門 第1回審査委員会	候補者審査
2023. 3. 11	京都賞先端技術部門 第2回審査委員会	候補者審査
2023. 3. 12	京都賞基礎科学部門 第2回審査委員会	候補者審査
2023. 3. 18	京都賞思想・芸術部門 第2回審査委員会	候補者審査

(2) 研究助成事業の各委員会

開催日	名称	議題
2022. 10. 4	2022 年度第 1 回 InaRIS 運営委員会	運営に関する事項
2022. 10. 4	2022 年度アドバイザー・ボード・ミーティング	InaRIS 研究報告
2022. 10. 4	2022 年度中間審査会の開催	InaRIS 研究報告
2022. 11. 23	2023 年度 InaRIS フェロー 第 1 回選考委員会	フェロー選考
2022. 12. 2	稲盛研究助成選考委員会 人文・社会科学系分科会	助成対象者選考
2022. 12. 3	稲盛研究助成選考委員会 自然科学系分科会	助成対象者選考
2022. 12. 24	2023 年度 InaRIS フェロー 第 2 回選考委員会	フェロー選考

2023. 1. 23	2022 年度第 2 回 InaRIS 運営委員会	運営に関する事項
-------------	---------------------------	----------

3. 広報活動

(1) 記者発表の実施

実施日	内容	実施場所／配布
2022. 4. 20	身のまわりの不思議を見つけるウェブサイト キヅキランドがオープン！（資料配布）	関係記者クラブ
2022. 6. 17	第 37 回(2022) 京都賞受賞者発表 記者会見	ホテル日航プリンス京都
2022. 7. 26	INAMORI ミュージック・デイ発表 記者会見	京都市交響楽団練習場内 合奏場
2022. 8. 3	小島よしおさんと一緒に「キヅキランド」で不思議を見つけよう！（資料配布）	関係記者クラブ
2022. 11. 10	第 37 回(2022) 京都賞記念講演動画オンライン配信のお知らせ（資料配布）	関係記者クラブ
2022. 12. 7	「キヅキランド」 洛中洛外屏風（池田本）を観察する動画が登場（資料配布）	関係記者クラブ
2023. 3. 10	2023 年度稲盛研究助成 50 名採択（資料配布）	関係記者クラブ
2023. 3. 17	2023 年度稲盛科学研究機構（InaRIS）フェロー決定（資料配布）	関係記者クラブ

(2) 刊行物の発行

発行月	内容	発行部数
2022. 7	稲盛財団 NEWS 104 号	2,500 部
2022. 11	稲盛財団 NEWS 105 号	3,300 部

(3) 電子媒体による情報発信

以下の電子媒体によって、京都賞や稲盛財団の活動に関連する情報を発信した。

- ・稲盛財団ホームページ（日・英）
- ・京都賞紹介サイト（日・英）
- ・Facebook 「京都賞-Kyoto Prize」（日・英）
配信：計 79 回（日：49 回/英：30 回）
- ・Twitter 「Kyoto Prize」「Inamori News」（日・英）

- ・メールマガジン 「稲盛財団 Magazine」(日)
配信：計 10 回 (2022 年 4 月、6 月、9 月、10 月、11 月 2 回、
12 月、2023 年 1 月、2 月、3 月)
「Inamori Foundation e-Newsletter」(英)
配信：計 8 回 (2022 年 6 月、9 月、10 月、11 月 2 回、2023 年
1 月、3 月 2 回)
「3S Magazine (3S 会員専用)」
配信：計 5 回 (2022 年 6 月、9 月、12 月、2023 年 1 月、3 月)

(4) 京都市京セラ美術館「京都賞コーナー」の展示運用管理

受賞者の考えや生き方にふれることを目的に、京都市京セラ美術館の東広間に常設展示している「京都賞コーナー」への理解を促すための映像コンテンツや各種サインを制作、設置した。

2022年度研究助成事業 稲盛研究助成対象者並びに研究題目

	対象者	研究題目
自然科学系	アサノ ケイスケ 浅野 圭佑 京都大学 大学院工学研究科 助教	炭素-炭素二重結合の触媒機能開拓に基づく時空間選択的反応プローブの開発
	アンザイ アツシ 安西 淳 慶應義塾大学 医学部 助教	臓器間炎症ネットワークから捉えた動脈硬化進展の新規分子機序の解明
	イトウ タイチ 伊藤 太一 九州大学 基幹教育院 助教	ヒドラにおける睡眠量の雌雄差とオルニチン作用機序の関係性の解明
	ウエダ マサヒコ 上田 仁彦 山口大学 大学院創成科学研究科 講師	繰り返しゲームにおける利得制御の数理構造の解明
	オガワ アキコ 小川 亜希子 東北大学 加齢医学研究所 助教	新規RNA修飾代謝酵素による免疫応答制御の解明
	オグリ ヤスオ 小栗 靖生 京都大学 大学院農学研究科 助教	ベージュ脂肪細胞の増殖に関わる調節因子の多面的解析
	オノ ダイスケ 小野 大輔 名古屋大学 環境医学研究所 講師	時計遺伝子によらない新・概日時計メカニズムの解明
	カショウ カズトシ 加生 和寿 九州大学 大学院薬学研究院 助教	ミトコンドリアゲノムの数と遺伝情報を正確に維持するための制御因子探索と分子機構解析
	カシワギ ミツアキ 柏木 光昭 筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構 助教	興奮性神経による睡眠の新規神経回路メカニズムの解明
	カワベ タケシ 河部 剛史 東北大学 大学院医学系研究科 准教授	T細胞の自然免疫機能に着目した新たな感染症治療戦略の創出
	キマタ ユウスケ 木全 祐資 東北大学 大学院生命科学研究科 助教	コケ植物ゼニゴケを用いて植物の体軸形成機構の進化にせまる
	コダマ マサフミ 小玉 将史 鹿児島大学 水産学部 助教	流れ藻生態系の形成過程とそのメカニズムの解明
	ゴトウ アキヒロ 後藤 明弘 京都大学 大学院医学研究科 助教	オフラインシナプス可塑的変化の記憶固定における必要性
	コワダ トシユキ 小和田 俊行 東北大学 多元物質科学研究所 助教	細胞小器官同士の膜接触領域の形成と解離を光制御する化学ツールの開発

	対象者	研究題目
自然科学系	コンドウ アズサ 近藤 梓 東北大学 大学院理学研究科 准教授	強塩基性キラルブレステッド塩基触媒を用いた非連続不斉炭素中心を有する光学活性化合物の合成法の確立
	シオミ コズエ 塩見 こずえ 東北大学 学際科学フロンティア研究所 助教	鳥類の飛行モード進化に関わる遺伝的メカニズムの解明
	ジツキ ススム 實木 亨 三重大学 大学院医学系研究科 准教授	シナプス可塑性による脳機能地図の再構成のメカニズム
	シノダ カズマ 篠田 一馬 宇都宮大学 工学部 准教授	遠隔迅速病理診断のための分光偏光同時撮影と多目的デジタル染色法の開発
	シマダ タカシ 島田 貴士 千葉大学 大学院園芸学研究院 助教	油滴を介した植物のストレス応答機構の解明
	スワ ヒデマロ 諏訪 秀磨 東京大学 大学院理学系研究科 助教	電荷・スピン・軌道自由度が絡む有限温度量子ダイナミクス計算法の開発
	タケダ タカシ 武田 貴志 東北大学 多元物質科学研究所 助教	動的な水素結合有機フレームワークの創製と外部刺激応答材料への展開
	タナカ ヒロヨシ 田中 啓祥 岡山大学 学術研究院医歯薬学域 助教	膵がんにおける線維化障壁を克服するナノメディシン戦略の開発
	タナカ マサキ 田中 正樹 東京農工大学 大学院工学研究院 助教	高秩序な双極子配向を誘起する分子ダイナミクスの探索
	タナカ ユウヤ 田中 裕也 東京工業大学 科学技術創成研究院 助教	ラジカルの非局在化による安定化を鍵とする有機金属単分子スイッチの開発
	ツチオカ シュンスケ 土岡 俊介 東京工業大学 情報理工学院 講師	アフィン・リー環の表現論を用いたロジャーズ・ラマヌジャン型恒等式の導出
	テシマ ヒデアキ 手嶋 秀彰 九州大学 大学院工学研究院 助教	加熱液中原子間力顕微鏡の開発と沸騰開始の素過程の解明
	トガシ ヨウスケ 富樫 庸介 岡山大学 学術研究院医歯薬学域 教授	腫瘍微小環境のミトコンドリア異常の抗腫瘍免疫応答への影響の解明
	ナガオカ ソウ 長岡 創 奈良県立医科大学 医学部 助教	マウス卵子の機能形成及び生存を保証する転写制御機構の解明

	対象者	研究題目
自然科学系	ハヤシ ゴウスケ 林 剛介 名古屋大学 大学院工学研究科 准教授	分解耐性を持つタンパク質の設計と化学合成
	ハヤシ ショウタロウ 林 正太郎 高知工科大学 環境理工学群 講師	ドミノ型単結晶—単結晶相転移の実現による分子結晶相転移の観察
	ヒビヤ ユキ 日比谷 由紀 東京大学 大学院総合文化研究科 助教	太陽系誕生環境の謎への挑戦: 希ガス同位体を用いた原始太陽系円盤の温度構造と近傍星の解明
	ヒロタ マサカズ 広田 雅和 帝京大学 医療技術学部 講師	デジタル時代の視機能管理: 眼疲労を簡便に定量評価できるデバイス開発と適切なスマートフォン視距離の探索
	マエダ ミハル 前田 深春 秋田大学 大学院医学系研究科 助教	細胞分裂期に分泌が停止するメカニズム
	マツヒサ ナオジ 松久 直司 東京大学 生産技術研究所 准教授	高速駆動伸縮性皮膚一体型ディスプレイ
	マツモト トモノリ 松本 知訓 大阪大学 微生物病研究所 助教	倍数性変化に基づく癌薬剤耐性化機構の解明とその抑止戦略の開発
	モリシタ ヒデアキ 森下 英晃 順天堂大学 大学院医学研究科 講師	生体の恒常性と変容を支える新規細胞内分解機構の同定
	モリタ リツコ 森田 梨津子 理化学研究所 生命機能科学研究センター 上級研究員	毛包幹細胞の自己複製能獲得メカニズムの解明
	ヤマダ キヒロ 山田 貴大 東京工業大学 理学院 助教	X線誘起磁化反転現象の開拓
	ヤマダ シュンスケ 山田 駿介 東北大学 大学院工学研究科 助教	生分解性金属のナノポーラス化技術の確立とその蓄電素子への応用
	ヨシダ スグル 吉田 優 東京理科大学 先進工学部 准教授	新規複素環構築のための逐次アライン反応
		小計 40件

	対象者	研究題目
人文・社会科学系	ウ ユジン 禹 裕眞 一橋大学 大学院法学研究科 講師	難民への権利保障の2つの道：受入国政府と国際機関はいつ難民保護を進めるか？
	カワムラ ユウスケ 河村 有介 神戸大学 大学院国際協力研究科 助教	中国対外援助の中東・北アフリカ地域の社会保障に対する影響の分析：エジプトを事例として
	ササキ メグミ 佐々木 恵 北陸先端科学技術大学院大学 保健管理センター 准教授	大学生の先延ばし行動と精神健康の関係ー日本人学生と留学生の共通点・相違点に着目した心理学的研究ー
	サトウ ショウヘイ 佐藤 尚平 早稲田大学 文学学術院 准教授	日英両帝国による植民地文書の破棄と隠匿についての比較研究
	タカハシ ジュンイチ 高橋 純一 福島大学 人間発達文化学類 准教授	「心の目」の多様性：アフエンタジアの出現率推定とサブタイプの提唱
	トミナガ キョウコ 富永 京子 立命館大学 産業社会学部 准教授	社会的権利要求に対する揶揄・冷笑・攻撃——雑誌記事コーパス分析と回顧的語りの検討から
	ナカヤマ リョウヘイ 中山 遼平 東京大学 大学院人文社会系研究科 助教	日本語読文能力を支える視覚運動処理に関する心理物理学的検討
	フクイ マサノリ 福井 昌則 徳島大学 高等教育研究センター 准教授	学校教育で創造性を高める方法に関する検討：問題変形と問題の構造理解に着目した実証的研究
	ワシヤ ヨウスケ 鷺谷 洋輔 東北大学 大学院教育学研究科 准教授	「動点観測」の可能性ー見習いマタギのエスノグラフィー
		小計 9件
		合計 49件

※所属・役職は2022年4月15日現在

※助成金額は、1件につき100万円

2023年度研究助成事業 稲盛研究助成対象者並びに研究題目

	対象者	研究題目
自然科学系	アキヤマ ミドリ 秋山 みどり 京都大学 大学院工学研究科 助教	箱型分子ペルフルオロキュバンの電子伝導性の解明
	アラキ テツペイ 荒木 徹平 大阪大学 産業科学研究所 准教授	柔軟性や透明性を有する大規模有機回路の研究
	イシワリ フミタカ 石割 文崇 大阪大学 大学院工学研究科 講師	デザイン型二面性分子によるペロブスカイト太陽電池の表面パッシベーション
	イノウエ ダイスケ 稲生 大輔 大阪大学 大学院医学系研究科 特任講師	サイトカイン受容体を標的とするリガンド動態を可視化する蛍光センサーの創生
	イワサキ ユカ 岩崎 由香 理化学研究所 生命医科学研究センター チームリーダー	小分子RNAとトランスポゾンが形作るヘテロクロマチン構造の理解
	ウジハラ ヨシヒロ 氏原 嘉洋 名古屋工業大学 大学院工学研究科 准教授	鳥類心筋細胞の高出力を生み出す仕組みの解明
	ウスイ ノリヨシ 臼井 紀好 大阪大学 大学院医学系研究科 准教授	薬物依存における新規依存形成メカニズムの解明
	エイナガ マリ 榮永 茉利 大阪大学 大学院基礎工学研究科 助教	室温に近い超伝導転移温度をもつ3元系水素化合物の探索
	オサベ ケンジ 長部 謙二 大阪大学 産業科学研究所 助教	光質の変換操作による植物の形質変化と遺伝子発現解析
	カク シゲル 加来 滋 東京工業大学 理学院 助教	グラフェンを介したエピタキシャル成長の理解と制御
	カリヤ ショウタ 刈屋 翔太 大阪大学 接合科学研究所 助教	酸素固溶チタン合金の高延性化機構解明
	キクタ ジュンイチ 菊田 順一 大阪大学 大学院生命機能研究科 准教授	骨・関節破壊における破骨細胞の機能とその制御機構の解明
	キムラ ケンイチ 木村 健一 筑波大学 生存ダイナミクス研究センター 助教	CD73陽性細胞による骨髄造血微小環境形成メカニズムの解明
	クルマジ タカシ 車地 崇 東京大学 大学院新領域創成科学研究科 助教	磁性と伝導電子が強く結合した新規磁性トポロジカル半金属の単結晶育成と物性解明

	対象者	研究題目
自然科学系	コガ サオリ 古賀 沙緒里 熊本大学 発生医学研究所 助教	造血幹細胞の試験管内分化モデルの構築
	ゴトウ タイチ 後藤 太一 東北大学 電気通信研究所 准教授	スピン波光波変換素子に適した磁気光学ナノ構造体の開発
	コバヤシ ノブユキ 小林 信之 大阪大学 核物理研究センター 助教	結晶標的を用いた新しい原子核反応の研究
	サカイ ユウジ 境 祐二 京都大学 医生物学研究所 特定准教授	細胞内分解機構の理論的解明
	サカモト タカイク 阪本 鷹行 徳島大学 大学院社会産業理工学研究部 講師	Fusarium 属糸状菌によるポリマー原料発酵生産技術の開発
	サカモト マサユキ 坂本 雅行 京都大学 大学院生命科学研究科 特定准教授	脳深部イメージングのための超高輝度プローブの合理的設計
	サダ アイコ 佐田 亜衣子 熊本大学 国際先端医学研究機構 特任准教授	周産期ウェルビーイング実現へ向けて：常在菌を介した表皮幹細胞形成メカニズムの解明
	サトウ エイスケ 佐藤 英祐 岡山大学 学術研究院自然科学学域 助教	電気化学的手法によるインドールの環化三量化反応
	サトウ ハジメ 佐藤 玄 山梨大学 大学院総合研究部 特任助教	実験科学と計算化学の協奏によるテルペン環化酵素の解析
	セキモト アツシ 関本 敦 岡山大学 学術研究院環境生命科学学域 准教授	数理最適化理論に基づくデータ駆動型の先端流動制御
	タカハシ ユウマ 高橋 佑磨 千葉大学 大学院理学院 准教授	ウキクサにおける種内多様性の生態的機能とそのメタ遺伝基盤
	タケダ ヒロノリ 竹田 弘法 奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 助教	ミトコンドリア外膜トランスロケーターSAM複合体のタンパク質膜挿入プロセスの構造生物学的研究
	タナカ ワカナ 田中 若奈 広島大学 大学院統合生命科学研究科 助教	植物ホルモンが司る腋芽幹細胞創生機構の解明

	対象者	研究題目
自然科学系	タマミツ ミウ 玉光 未侑 東京大学 先端科学技術研究センター 特任助教	分子生物学データを教師とした非標識光学計測による非破壊な細胞表現型分析基盤の開発
	ツカサキ マサユキ 塚崎 雅之 東京大学 大学院医学系研究科 特任助教	新しいタイプの骨形成細胞の発見と制御
	ニシカワ ツヨシ 西川 剛 京都大学 大学院工学研究科 助教	ホウ素含有ビニルポリマーの解重合性設計を基軸とした循環利用型高分子の開発
	ノダ タイチ 野田 大地 熊本大学 大学院先端機構 准教授	異数性生殖細胞で起こる精子形成ダイナミクスと受精能力の検討
	ヒルシュベルガー マクシミリアン ヒルシュベルガー マクシミリアン Hirschberger, Max 東京大学 大学院工学系研究科 准教授	熱輸送によるスピン励起の量子位相の検出
	ヒロセ ヒサアキ 広瀬 久昭 京都大学 化学研究所 特定准教授	細胞内抗体送達ペプチドの細胞選択性機序解明
	フクシマ キヨハル 福島 清春 大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 特任助教	多様な単球サブセットが形成する線維化病態のダイナミズム
	ホソカワ トモヒサ 細川 智永 名古屋大学 大学院理学研究科 講師	液-液相分離の制御によるパーキンソン病の進行抑制
	マナベ ヨシユキ 真鍋 良幸 大阪大学 大学院理学研究科 助教	ゴルジ体/小胞体選択的薬物送達で拓く糖鎖エディティング
	ヤザキ リョウ 矢崎 亮 九州大学 大学院薬学研究院 助教	重水素化合物の実用化に向けた合成基盤の創成
	ヤマモト ショウヘイ 山本 昌平 東京大学 大学院薬学系研究科 助教	中心体-微小管ネットワークの再構成による細胞型ロボットの開発
	ヨコイ タイシ 横井 太史 東京医科歯科大学 生体材料工学研究所 准教授	剥がれないアパタイトコーティングの創製
	ワカバヤシ トモミ 若林 智美 奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 助教	日長制御によるミヤコグサの開花時期種内多型と環境適応機構の解明
	小計 40件	

	対象者	研究題目
人文・社会科学系	アケサカ ミカ 明坂 弥香 神戸大学 経済経営研究所 助教	姿なき殺人鬼：花粉症による事故の増加と経済損失
	ウタガワ コウイチ 歌川 光一 聖路加国際大学 大学院看護学研究科 准教授	生涯学習政策におけるシリアスレジャーの位置づけ方をめぐる日米比較
	ガデミ アミン ガデミ アミン 大阪大学 大学院人文学研究科 講師	士族反乱のグローバル思想史——神風連の乱を中心に
	カネザキ ユウコ 金崎 由布子 東京大学 総合研究博物館 助教	南米アマゾンの持続可能な開発に向けた基盤研究：考古学および古気候学的アプローチをもとに
	コジマ ダイゾウ 小嶋 大造 東京大学 大学院農学生命科学研究科 准教授	家計の食品ロス削減に関する実証分析
	ツチダ チアキ 土田 千愛 東京大学 大学院総合文化研究科 特任助教	一時的保護の再考：ウクライナ避難民の保護を事例に
	フジムラ タツヤ 藤村 達也 京都大学 大学院教育学研究科 助教	戦後日本における大学受験の大衆化と日本型受験産業の展開
	ミサワ ダイジュ 三沢 大樹 東海大学 児童教育学部 准教授	日本歌曲の演奏に於ける新たな視点からのアプローチ法に関する基礎的研究
	ヤマト ユウコ 大和 祐子 大阪大学 日本語日本文化教育センター 准教授	漢字系・非漢字系日本語学習者による漢字語彙の処理：書字行動分析からの検討
	ヤマモト ケント 山本 健人 北九州市立大学 法学部 准教授	宗教団体からの離脱の権利に関する憲法学的探求
		小計 10件
		合計 50件

※所属・役職は2023年3月10日現在

※助成金額は、1件につき100万円

2023年度研究助成事業 稲盛科学研究機構(InaRIS)フェロー

採択 年度	対象 領域	InaRISフェロー	研究テーマ
2020	量子	京都大学 基礎物理学研究所 教授 高柳 匡	量子エンタングルメントから創発する量子重力 理論
2020	量子	東京大学 大学院総合文化研究科 准教授 野口 篤史	誤り耐性量子計算のための超高精度量子制御
2021	生命	東京大学 先端科学技術研究センター 教授 西増 弘志	新規RNA依存性酵素の探求
2021	生命	北海道大学 低温科学研究所 教授 山口 良文	哺乳類の冬眠能を構成する因子同定とその機能 検証
2022	材料	東北大学 電気通信研究所 教授 深見 俊輔	人工制御による物質・材料の「知能」の発現と コンピューティングへの展開
2022	材料	京都大学 高等研究院 准教授 藤田 大士	生物情報起源材料用のマトリックス合成と新機 能の創出
2023	情報	九州大学 大学院システム情報科学研究院 准教授 亀井 靖高	機械と人のインタラクションによるソフトウェ ア開発様式の創出
2023	情報	名古屋工業大学 大学院工学研究科 教授 田中 由浩	内的特性に基づく触知覚の原理解明と情報化
			以上 8 名

※所属・役職は 2023 年 3 月 1 日現在

※助成金額は、各フェローにつき 1 億円（1,000 万円を 10 年間にわたり助成）